

事務局だより

会議報告

令和4年10月1日より令和5年3月31日まで

◆第27回理事会

決議事項…

- 1 自令和4年4月1日至令和5年3月31日事業年度に係る事業計画の変更の件
- 2 自令和5年4月1日至令和6年3月31日事業年度に係る事業計画及び収支予算の件
- 3 資金調達及び設備投資の見込みの件
- 4 世界遺産の森及び御蔭神社境内等の建造物修理保存等助成事業準備資金取扱要領制定の件
- 5 世界遺産の森及び御蔭神社境内等の記念物整備保存等助成事業準備資金取扱要領制定の件
- 6 世界遺産の森及び御蔭神社境内等の各種施設・設備新設補修等助成事業準備資金取扱要領制定の件
- 7 副理事長選定の件
- 8 顧問選任の件

報告事項…

- 1 役員退任の件
- 2 職務執行の報告
- 3 会員数の報告

※役員名簿は財団ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

会員数報告(令和5年3月1日現在)

賛助会員	116件
団体・法人会員(特別・正)	88件
個人会員	1,043名
合計	1,247件

令和5年度会員証及び特典パンフレット

令和5年度の会員証は6月下旬にお届けいたします。なお、令和4年度会員証は6月30日までご利用いただけます。

新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産の森の環境保護と下鴨神社の文化財保全にご理解・ご協力をいただきたく、会員の皆さまには、新しい会員募集の呼びかけに一層のご支援、ご協力をお願いいたします。糸の森財団ホームページの「入会申込フォーム」からお申込みいただけます。

ご寄附のお願い

令和4年度も多くの寄附をいただき、糸の森に関する数々の保存整備事業を実施することができました。心よりお礼申し上げます。令和5年度も引き続きご支援をよろしくお願いいたします。ご寄附は同封の振替用紙をご利用いただけますようお願い申し上げます。また、「糸の森財団ホームページ」の寄附申込フォームからもお申込みいただけます。

クレジットカード決済に関するお知らせ

ご寄付・ご入会(継続の年会費支払も含みます)・ご献木をされる際に、糸の森財団ホームページの申込フォームにおきまして、クレジットカードでの申込が可能となりました。国際ブランド(VISA、JCB等)のいずれかのロゴがついていれば、発行しているカード会社に関係なくご利用可能です。なお、クレジットカード決済の留意点は当財団HPの「森を守る」(ご寄附・ご入会・ご献木)をご覧ください。

下鴨神社だより

行事日程

●令和5年上半期行事		●令和5年下半期行事	
4月29日	市民植樹祭	7月21日～7月30日	みたらし祭
5月3日	流鏝馬神事	8月6日	矢取神事
5月12日	御蔭祭	9月29日	名月管絃祭
5月15日	賀茂祭／葵祭		
6月10日	螢火の茶会		

各行事の開催有無については、下鴨神社のホームページにてご確認ください。

ニュース

寄附金に税額控除制度が適用されます

当財団は平成29年8月10日付で内閣府より税額控除に係る証明書を取得しました。この度更新され、令和4年7月27日付の新たな証明書(令和9年8月9日まで有効)が当財団HPに添付されています。これにより、個人の当財団への寄附・会費・献木について、領収書及び税額控除に係る証明書を添付の上、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、左に示す算式により算出された額が所得税額から控除されます。

$$\text{寄附金特別控除額} = \left[\begin{array}{l} \text{その年中に支払った} \\ \text{公益社団法人等に対する} \\ \text{寄附金の額の合計額} \end{array} \times 40\% \right] - 2,000\text{円} \quad (\text{※1}) \quad (\text{※2})$$

※1 「その年中に支払った公益社団法人等に対する寄附金の額の合計額」については、その年分の総所得金額等の40%相当額を限度とされます。
 ※2 寄附金特別控除額は所得税額の25%相当額が限度となります。

糸の森

題字
賀茂御祖神社
新木直人宮司

編集・発行

公益財団法人

世界遺産賀茂御祖神社境内糸の森保存会事務局

〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内 ☎075-781-0010

www.tadasunomori.or.jp



糸の森 財団 報

令和5年3月31日発行
通号75号

Vol.27

糸の森

糸の森ぶらりぶらり 第二十六回

吉田博宣先生を偲ぶ

糸の森NEWS / 催事案内

表紙写真 / 中田 昭
「社叢(しゃそう)・糸の森」





糺の森財団

特別顧問 中本 晃

(株式会社島津製作所相談役)

皆様には、平素より糺の森財団の諸活動に格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

京都は御所を中心にくくから長い歴史や文化、神社仏閣、伝統技術、日本料理に至るまで、現代を生きる日本人の礎を築き今に伝承している地と言えます。

現代の社会を支える産業面に目を向けますと、多彩な個性溢れるグローバル企業が京都に数多く見受けられます。その背景には、伝統技術の伝承とともに、モノ作りの精神が脈々と受け継がれていること、そして、長年にわたり新陳代謝を繰り返しつつ、当地に培われてきたDNAを、確実に過去から引継ぎ、新たな技術に磨き上げ、未来につなげていこうとしていることがあると思われま

近年では、賀茂の神様がお鎮まりになる糺の森は、平成三十年の風水害で大きなダメージを受けました。しかし、この森で毎年行われる植樹祭では献木された木々の横で、多くの幼い子供たちが小さなスコップ片手に、「大きく育て」と願いを込めて、苗木を植える光景が見られます。糺の森は過去より幾多の自然災害に見舞われてきましたが、その都度、心を寄せて下さる人々の尽力により力強く再生し、今日の森の姿があります。

私ども島津製作所でも、中京区の本社敷地を「島津の森」として緑化しています。この森には、葵祭の名称の由来にもなっているフタバアオイやフジバカマなどの平安時代の植物、またクスギ・カシワなどの落葉広葉樹を植栽しています。これは生物多様性の保全・育成を目的とした、自然を守る活動の一環です。

環境破壊が進む、このような時代であるからこそ、長きにわたって再生を繰り返しながら山城の太古の原生林を今に伝える糺の森を、確実に次の時代に引き継いでいかなければなりません。会員の皆様におかれましては、糺の森の育成と環境保護を推進する糺の森財団の活動に引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

吉田博宣先生 を偲ぶ



糺の森財団 理事・学術顧問 森本 幸裕

(京都大学名誉教授／公益財団法人京都市都市緑化協会理事長)

令和四年九月二十日、吉田博宣先生がお亡くなりになりました。心より、哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

私が先生の訃報を知ったのは、その翌日、つくば国際会議場にかかってきた電話でした。自然環境の保全再生の学術発展をミッションとする、三つの学会の合同大会の初日。吉田先生も平成九〇一年に学会長を務められた日本緑化工学会が幹事学会でした。先生の八年後に学会長を引き継ぎ、京大の先生の研究室も引き継いだ私にとって、その電話は何か運命的にも思えました。

公私ともにお世話になった吉田先生です。専門分野では、特に風景、景観の見方を教えていただきました。吉田先生の先代の中村一先生が教授の時代でした。定期的に研究室で都市景観に関する研究会を開催して、その議論を京都新聞に連載。その後、『京の原風景』（学芸出版）として出版する機会があったのです。研究室先輩の吉村元男氏が京都新聞社の記者とともに京大の造園学研究室に持ち込まれた企画でした。当時の権威の先生方と新進の研究者だった吉田先生に加え、京都芸術短期大学に赴任した私の私も参加の機会を得て、景観を人間とともにトータルに捉える視点を教えていただく機会となったのです。

吉田先生は、自然や歴史のみならず現代の地域の人々と水と緑の景観の関わりを意識を、松ヶ崎の前川や、宇治の木幡池を例に議論を展開され、景観をトータルに考える眼差しを教えてくださいました。

この頃に、糺の森についても吉田先生から大事な示唆を賜りました。江戸時代には泉川の川辺に商人が涼床をかまへ、みたらし団子など、酒食を提供して賑わったことを示す文献（図参照）だけでなく、先生の子供の頃には、糺の森はササを蹴立てて走り回り、その当時まだ水を湛えた池にじゃぶじゃぶ入る遊び場だった体験をもとに、森の機能を論じられました。四手井綱英先生のご指導のもと、吉田先生と私も参加した『下鴨神社糺の森』（ナカニシヤ出版）でも、江戸時代から京の町を特徴づけた「町の森」の視点から考える機会を与えていただきました。今どきの言葉で言えば、森林の文化的サービスの視点です。

また、先生のご研究の中では、景観評価は長期的視点から行う必要があるという重要な視点を実証されたことが特筆されます。先生は高度経済成長のなか、土地造成で傷ついた斜面の緑化研究をリードしていた京大研究グループの主要メンバーとして、京都東山ドライブウェイの斜面緑化の先駆的な実験を長年月かけて評価されました。

普通なら、播種した芝草がよく茂る方法が一番、ということとで終わるのです。ところが先生は、緑化当初に外来の芝草が繁茂して良好な緑景観となっていた試験区よりも、短命な芝草が速やかに衰退して不成績地に見えても、その後本来の在来の植生にスムーズに移る試験区の方が、長期的に見れば美しく、豊かな植生となることを示されたのです。

こうした、景観評価の長期的視点やトータルな視点こそ、我々が継承すべき、先生の遺産かと思えます。大木が倒れることは悲しいことですが、次世代の多様性と活力を生む源泉でもあります。倒木は多様な生物群集の生息場所ともなります。森の保全と継承は、文化的サービスとともに、長期的視点から現実的な解を探っていく必要があるのです。

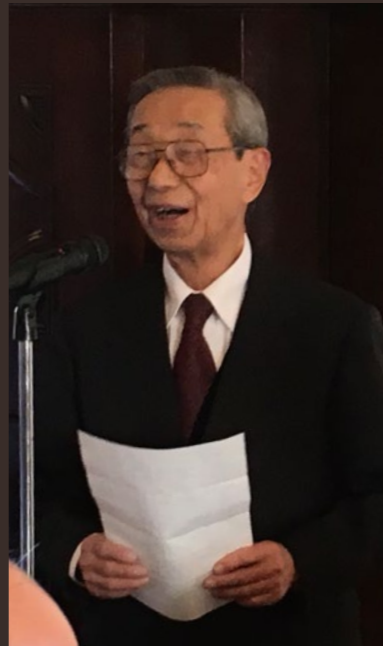
先生の社会的貢献も多大です。糺の森の保全をはじめ、広く日本各地の史跡や名勝の保存と整備の指導の功績などで、瑞宝小綬章を叙勲されました。また、私が現在理事長を務める、公益財団法人京都市都市緑化協会も、協会創設以来、理事・評議員としてご指導を賜ったことも感謝申し上げます。先生から頂いた重要な視点を継承する決意を述べて結びと致します。安らかにお眠り下さい。



都名所図会に描かれた河合社と川辺の茶屋。「糺川原」「みたらし川」の文字が読める



吉田先生の傘寿と叙勲を祝う会（前列右から5人目 2019年京都にて）



ユーモアたっぷりに挨拶される先生



お寿司屋さんの前で卒業生と交流（左から3人目 2018年大阪にて）



瑞宝小綬章 受賞時の吉田先生（80歳）

よし だ ひろ のぶ
吉田博宣先生のご略歴

- 1938年1月14日 京都市生まれ（享年85）
 - 1960年 京都大学農学部林学科卒業
 - 1960年 東興建設株式会社技師
 - 1961年 京都市都市計画局公園課技術吏員
 - 1965年 京都大学農学部助手
 - 1967年 京都大学農学部講師
 - 1975年 京都大学農学部助教授
 - 1993年 京都大学農学部教授
 - 1997年 京都大学大学院農学研究科教授（改組）
 - 2001年 京都大学定年退官、京都大学名誉教授
 - 2001年 日本大学生物資源科学部教授
 - 2008年 武庫川女子大学非常勤講師
 - 2018年 武庫川女子大学学術顧問
- 受賞・表彰歴
- 日本造園学会賞（研究論文部門） 1983年
 - 日本公園緑地協会・北村賞 1998年
 - 日本緑化工学会・功績賞 2000年
 - 日本造園学会・上原敬二賞 2009年
 - 瑞宝小綬章 2018年

糺の森財団 理事・学術顧問 2009年～2022年

糺の森NEWS

発行所 公益財団法人世界遺産産賀茂御祖神社
境内糺の森保存会事務局
www.tadasunomori.or.jp

秋の糺の森コンサート 「音の森」開催(河合神社境内)

9月はコンサート当日、雨天となり中止となりました。10月は、金管楽器による五重奏コンサートを開催。11月は、4名のサクソ奏者によるコンサートを行いました。春のコンサート情報は、糺の森財団ホームページやフェイスブック等でご確認ください。



助成対象事業

糺の森財団は令和4年度に実施した糺の森環境保全事業などに助成いたしました。

助成総額 17,500,000円

- 第2期糺の森整備工事
復元した竜方池(河合神社北側、雑太社西面)周辺の整備
助成額 7,000,000円
- 御蔭祭保存事業
日本最古の神幸列として古儀を継承する御蔭祭の保存事業
助成額 3,000,000円
- 表参道口整備工事
表参道口西側にカツラの植栽及び周辺整備工事
助成額 3,000,000円
- 河合神社周辺整備工事
河合神社東側にカリン並木の植栽及び周辺整備工事
助成額 2,000,000円
- 境内環境保全事業
危険木伐採や枝打ち工事、並びに表参道、楼門内の砂補充敷き均し工事
助成額 1,750,000円
- 流鏝馬神事の保存と騎射育成事業
助成額 500,000円
- 世界遺産糺の森「葵の庭」整備事業
助成額 250,000円

催事案内 遊び、学ぶ、糺の森のつどいあれこれ

春の糺の森コンサート「音の森」

月日 4月、5月、6月(日未定)
時間 各月とも午後2時~午後3時(予定)
会場 河合神社にて開催予定(糺の森南側) **参加** 無料

第33回 糺の森市民植樹祭

月日 4月29日(土・祝) **時間** 午前10時~正午
場所 糺の森馬場特設会場

山城原野の植生を今に残す「糺の森」を後世に伝えるため、毎年多くの方にご参加いただいています。

● 成木植樹

子供や孫の誕生、結婚周年などの記念に成木を植樹いただけます。

献木料 150,000円(樹齢10年未満 幹回り10~12cm・高さ3m位)
300,000円(樹齢10~15年 幹回り20cm未満・高さ5m位)
500,000円(樹齢15~20年 幹回り30cm以上・高さ7m位)

※上記の樹齢及び大きさは目安です。樹種によって異なる場合があります。樹種は、ケヤキ・ムクノキ・エノキ・カツラ・カエデからお選びいただけます。

申込み 下鴨神社内糺の森財団事務局
TEL: 075-781-0010 Mail: info@tadasunomori.or.jp

締め切り 4月10日(月)

● 苗木植樹

子供も大人もどなたでも参加いただけます。ケヤキ・ムクノキ・エノキ・カツラ・カエデの約50cmの苗木を糺の森に植樹していただけます。お気軽にご参加ください。

参加費 1,000円(1名) ※植樹用スコップ、花鉢進呈
申込み 当日9時30分~午後2時

第32回 蛍火の茶会

月日 6月10日(土)
時間 午後4時(案)~午後9時(閉門)
場所 下鴨神社

明治の納涼茶席を再興した「蛍火の茶会」です。裏千家淡交会によるお茶席と森に舞う蛍をお楽しみください。重要文化財「神服殿」では箏曲や十二単姿の舞がご覧いただけます。

なお、新型コロナウイルスの感染再拡大等により中止になる場合がございますので、糺の森財団ホームページ、または糺の森財団事務局にお問い合わせください。

● お茶席

糺の森財団会員(令和5年4月1日時点で会員資格のある方が対象)および招待者のみ参加可能。会員の方には5月下旬にご案内をいたしますので参加希望の方はお申込みください。(新型コロナウイルスの感染状況により、昨年同様に参加希望者の中から抽選となる場合がございます)

● 蛍観賞(瀬見の小川沿い)

どなたでもご鑑賞いただけます。例年蛍が飛ぶのは午後8時頃からです。

同時開催 「糺の森納涼市」

時間 午後1時~午後9時 **場所** 下鴨神社楼門前
日本酒・京菓子・京漬物・植木など老舗の名店約15店が出店いたします。

世界遺産糺の森文化講演会

令和5年夏講座

月日 8月(予定)
場所 下鴨神社
参加 無料(糺の森保存のための募金500円をお願い致します)

下鴨神社 京都学問所だより

昨年の十月から本年の三月まで、鴨社資料館秀穂舎にて「鴨長明『方丈記』完成八一〇年資料展」を開催しました。大勢の方にご来館いただき、ありがとうございます。

長明が執筆した作品や和歌などを調べるため、書籍や論文に目を通しますが、先行研究者としてしばしば名前が挙がる人物に、京都市出身の小川寿一(一九〇七~一九三三)がいます。今回は小川寿一について紹介します。

龍谷大学在学中から『方丈記』の伝本(写本や版本のこと)の系統の研究をしていました。昭和七年(一九三三)に「鴨長明学会」を発足。翌年から、ほぼ毎月のペースで雑誌『鴨長明研究』を刊行しました(昭和十三年まで)。これには、戦後、長明研究をリードした築瀬一雄(一九二二~二〇〇八)も古書店に勤めながら、小川と競い合うように、今日の長明研究の礎となる論文を発表しています。また、在野の研究者

の論考や、一般会員による各地に残る鴨長明伝承の報告などが残っています。さらに、貴重な『方丈記』の伝本を「鴨長明叢書」と題して、翻刻文や影写本として刊行し、鴨長明研究に大きな功績を残しました。

戦後、京都帝大で農史を専攻。卒業後、大阪商科大学(現、大阪公立大学)の図書館司書を務めました。その後、研究者として、観光史学や産業史学を提唱。大阪産業大学、近畿大学の講師や、大阪成蹊女子短期大学(現、大阪成蹊短期大学)教授として、観光資源となる「歴史」の役割について、教えておられました。

長い間、離れていた長明研究ですが、昭和三十年代末に某出版社から執筆依頼があり、張り切っていると周りの人に語っておられました。ところが、別の研究者によって『方丈記』が刊行されました。

しかし、ほぼ同時期に、続群書類従完成会から出されていた雑

誌「ぐんしょ」に計六回にわたって、「四季物語について」(第二十一号から第二十六号)を発表します。戦後、世に送り出した長明研究関連の論考としては唯一かと思われま

【四季物語】は長明作とされていましたが、江戸時代後期の研究者から偽書ではないかと指摘があり、現在は後世に作成されたものと考えられています。小川は「偽書」という言葉は使わず、「仮託書」という言葉で『四季物語』の諸伝本を整理し、「もし、長明作だったとしたら」という立場から書いています。

小川の論考は少々、長明に対する思入れが強く、客観的な視点が少ないという特徴があります。鴨長明学会が戦争による物資統制の影響で休眠状態となり、戦後、長明の世界から離れていたため、この論考から、小川の強い思いを感じ取ることが出来ます。

晩年は桂に住んでいたことから、氏神様の松尾大社や京都府神社庁の広報誌、京都の社寺の歴史について執筆されています。ただ、没後、『方丈記』を含む膨大な貴重書や現物資料が売り立てられ、残念ながら、散逸しました。

なお、新型コロナウイルスの感染状況により、各行事を中止することがありますので、各催事も詳しくは糺の森財団ホームページをご確認いただくか、糺の森財団事務局にお問い合わせください。

☎075-781-0010